

中山博喜氏 講演会

アフガンに

命の水を

中村哲の「この指とまれ！」



干ばつの深刻化するアフガニスタンで、1600本の井戸を掘り、農業用水路を建設中のPMS(Peace (Japan) Medical Services)。そこには、中村哲医師と共に一隅を照らすたくさんの職員・作業員がいます。

日本人ワーカーとして現地で活動した中山博喜氏が、アフガニスタンでの人道支援についてお話しいたします。質疑応答のほか、中山博喜氏と福岡の学生の対話も予定しております。

日時: **2021年11月28日(日)**
15:00 ~ 17:30

会場: **ももちパレス**
ももち文化センター 小ホール
福岡市早良区百道2丁目3-15
市営地下鉄空港線藤崎駅から徒歩すぐ

入場料: 500円(事前予約制)
申込み: 予約フォーム(右QRコード)
<https://forms.gle/voBStxaQPh5xXhST7>
問合せ: 電話 092-731-2388
メール nakayama.pms@gmail.com



講演会情報はこちら

主催: 中山博喜講演会実行委員会
協力: PMS・ベシヤワール会、九州大学

入口 水道局 早良警察署 西公園 福岡市早良区役所 大濠公園駅 唐人町駅 西新駅 藤崎駅 至前原 バスターミナル (https://www.momochi-palace.net/access/ より引用) 気象台



中村哲医師とPMSの現地スタッフ 講師とPMS・ベシヤワール会の詳細は裏面にございます。

講師プロフィール:中山博喜氏

大学を卒業後、2001年4月より5年間、PMS・ペシャワール会の現地ワーカーとして中村哲医師の活動に参加。現地では経理を担当し、各事業に携わる。2006年の帰国後は、京都芸術大学（旧・京都造形芸術大学）写真暗室技官を経て、現在は同大学准教授。現地での体験を、学生たちに語り続けている。2021年、現地で撮影した写真とエッセイ「水を招く」（赤々舎）を出版。同タイトルで写真展を開催。



PMS の活動について

用水路事業:

干ばつで荒れた農村にて井戸・用水路を建設。PMS方式取水技術の普及活動も行う。



医療事業:

ハンセン病、アフガン難民、貧困層、山岳地帯の診療に取り組む。



農業事業:

「自給自足の農村回復」を掲げ、試験農場で耕作や畜産、養蜂などを行う。



PMS・ペシャワール会 の歩み

1983 ペシャワール会が発足

1984 中村医師がパキスタンのペシャワール・ミッション病院に着任

2000 1970年代から悪化の一途を辿る干ばつがアフガニスタン全土で一挙に深刻化
PMSでは緊急に水源確保事業を開始（2008年までに1600本以上の井戸の掘削を達成）

2003 マルワリード用水路の着工

2018 PMSが手がけた取水設備で、16,500ヘクタールを灌漑し、65万人の生活を保証



ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成された国際NGOです。またPMS(平和医療団・日本)は、中村哲医師が設立した現地事業体です。PMSは医療団体ですが、病気の背景には慢性の食糧不足と栄養失調があることから、沙漠化した農地の回復が急務だと判断し、今なお進行する大干ばつのなか灌漑水利事業に重きを置いています。これまでにアフガン東部で1600本の井戸を掘り、9つの取水堰・用水路を建設しました。現在でもダラエヌール診療所、農業事業、灌漑事業、訓練所でのPMS方式取水技術の普及活動に職員一同尽力中です。

ペシャワール会HP <http://www.peshawar-pms.com/>